



## 診療ガイドラインとは何で、 どのように使われるのですか？



エビデンス（科学的根拠）などに基づいて最適と考えられる治療法などを提示する文書のことです。患者と医療者の意思決定に重要な判断材料として使われます。

体調が悪かったり怪我をしたりするなどして医療機関を受診すると、診察や検査、治療などが行われます。このような一連の診療の流れの中には、複数の選択肢がある場合があります。たとえば、胃の検査として胃カメラかX線検査か、あるいは胃癌の治療として外科手術か薬物療法か、を選ぶ場合などです。診療ガイドラインは、複数の検査法や治療法のエビデンス、検査や治療に伴う益（利益）と害（弊害）のバランス、患者の価値観と希望、経済・社会・精神的負担などを考慮して、最適と考えられる方法を「推奨」という形で示した文書です。

診療ガイドラインは、医療者の経験を否定するものではありません。また診療ガイドラインに示されるのは一般的な診療方法であるため、必ずしもひとりひとりの状況に当てはまるとは限りません。患者と主治医はより良い解決策を見つけ出すために、協働して意思決定に取り組まなければなりません。

診療ガイドラインは、書籍や学会のホームページなどで読むことができます。Mindsガイドラインライブラリでは、日本で公開されている診療ガイドラインを、診療科などを超えて広く収集し、評価・選定の上、著作者から許諾を得たものを公開しています。

